



片山真理 《you're mine #001》2014
©Mari Katayama, Courtesy of rin art association

ライフ 生きることは、表現すること

現代アートから弱いロボットまで、11組の表現者と描く私たちの未来

会期 | 2020年4月11日(土) - 6月14日(日)

会場 | 熊本市現代美術館 ギャラリーⅠ・Ⅱ

平素から、当館の展覧会活動に対して、ご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび熊本市現代美術館では「ライフ 生きることは、表現すること」を開催いたします。

ライフ=生きることは、表現すること。

超高齢化社会を迎える現代の日本においては、誰もがいずれ、身体的・精神的な弱者になり、少数派になり得ます。それまで普通、多数派だと思っていた自分が、そういった場面に直面する時に、私たちは、どのような態度や生き方をしていくのでしょうか？

本展では、障がいや加齢、そこから生まれる困難さと向き合い、またそこに注目しながら、日々制作を続ける、11組の現代アーティストからロボット研究者、そして、それを支える人までを含めてご紹介します。

つきましては、ご多忙の折とは存じますが、同展についてご紹介いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

【出品アーティスト】 11組

ふじおか ゆき 藤岡祐機、わたなべ よしひろ 渡邊義紘、まつもと ひろのぶ 松本寛庸、おおやま きよなが 大山清長、きのした けい さよし 木下今朝義、もりしげ み 森繁美、かたやま まり 片山真理、ソフィ・カル、
アイシーディー ラボ I C D -LAB (豊橋技術科学大学)、にしもと きみ こ 西本喜美子、さかぐち きょうへい 坂口恭平

【展覧会をめぐるキーワードと概要】

障害／福祉／弱者／マイノリティ／普通／アール・ブリュット／自閉症／切り紙／絵画／家族／ハンセン病／菊池恵楓園／金陽会／故郷／仲間／サポーター／身体障害／写真／現代アート／弱いロボット／テクノロジー／不便益／高齢化／自撮り／自虐／笑／SNS／双極性障害／躁鬱／日課／執筆／料理／陶芸／編み物／ガラス／ギター／いのちの電話…

一緒に歩いていくこと

本展は、3人のアール・ブリュットのアーティストの作品から始まる。藤岡祐機（1993-/熊本在住）、渡邊義紘（1989-/熊本在住）との出会いは、今から18年前、熊本市現代美術館の開館記念展「ATTITUDE 心の中のたった一つの真実のために」だ。当時、熊本養護学校の小学部、中学部に通っていた二人は、切り紙作品を出品、その経験がきっかけとなって、今日まで、ずっと欠かす事なく制作を続けている。建物や宇宙などの精密な色鉛筆画を描く松本寛庸（1991-/熊本在住）との出会いは、当館で2013年に開催した「アール・ブリュット・ジャポネ」展への出品だった。その後、若手現代美術作家の登竜門 VOCA 展にも推薦、作品も収蔵した。彼らは家族やまわりの人に支えられながら、ずっと制作をつづけ、海外の美術館でも展示される注目作家になっている。今日も熊本で制作を続ける彼らの日々を、大量の作品や、成長を見守ってきた人たちの声を交えながら紹介する。



左：藤岡祐機《無題》（切り紙）、中：渡邊義紘《折り葉の動物たち》photo by shiraki、右：松本寛庸《サグラダファミリア》熊本市現代美術館蔵

ライフに思いをはせる

ハンセン病元患者の遠藤邦江さんが、自分の子どもかわりに大事にしてきた抱き人形の「太郎君」に美術館にお泊りしてもらったのをきっかけに、ハンセン病療養所菊池恵楓園絵画クラブ金陽会との交流が始まった。大山清長（1923-2015）、森繁美（1930-2005）、木下今朝義（1915-2014）を始めとする、同クラブメンバーの作品の多くは、一見、どこにでもあるようなアマチュア高齢者の素朴な絵画だ。しかし、描かれた絵の背景を知ると、そこには、故郷や家族と離れざるを得なかった悲しみや、偏見や差別と切り離せないそれぞれの人生のありようが、静かに伝わってくる。当館学芸員時代から、国内外のハンセン病療養所で制作された美術作品の調査を続け、作品を管理する仕組みを立ち上げ、現在も全国各地で展示を続ける蔵座江美（現ヒューマンライツふくおか理事）さんの協力を得て、作品を通して浮かびあがってくる人間の生き方とは何かを、いま一度考察する。



左：大山清長《白馬》、
中：森繁美《タイトル不明》、右：木下今朝義《鳥の女》いずれも一般社団法人金陽会蔵

アーティストが見つめる身体

片山真理（1987-/群馬在住）は、両足ともに脛骨欠損という主幹を成す太い骨がない病気を持って生まれ、9歳のときに両足を切断した。身体を模った手縫いのオブジェや立体作品、装飾を施した義足を使用したセルフポートレートを制作し、国内外で精力的に活躍する。彼女は、その独特な身体をもった一人の女性の人生を、現代アーティストとしての視点からみつめる。本展では《you're mine #001》（2014年）から新作まで、作家が辿ってきた生の軌跡を作品を通して展観する。

フランスを代表する現代アーティスト、ソフィ・カル（1953-/フランス在住）の《盲目の人々》は、生まれつき目の不自由な人々に「美のイメージとは何か」と尋ね、その対話を写真と言葉で表現したインスタレーションである。「私が見た美しいもの、それは海です。視野の果てまで広がる海です。」という極めて視覚的なイメージの言葉で始まるこの作品は、私たちは普段何かを「見ている」と思いながら、実は何も「見ていない」ということに気づかせ、「美」とはその人の生き方や考え方の中から、生み出されてくる事を教えてくれる。



片山真理《shell》
ガトーフェスタ ハラダ蔵
（群馬県立近代美術館寄託）

アートとともに、未来に向かって

豊橋技術科学大学にあるICD-LAB（Interaction & Communication Design Laboratory）で開発されるのは、自分でゴミを拾うことができず誰かに助けを求める《ゴミ箱ロボット》（2007-）や物語の続きを思い出せず人に尋ねてしまう《Talking-Bones》（2016-）など、思わず私たちが手を貸してしまうような「弱いロボット」である。「不利益（あえて手間をかけるシステムのデザイン）」とも言われるこの考え方には、新たなコミュニケーションの在り方のヒントが眠っている。

熊本の「自撮りおばあちゃん」として知られる西本喜美子（1928-/熊本在住）は、カメラやパソコンを駆使して、高齢であることを逆手にとったユーモアたっぷりの自虐写真を次々と発表し、全国的に知られている。加齢による機能の衰えや弱まりだけに注目するのではなく、創作活動による人との出会いが、その明るい未来志向を支える。

「躁鬱病」とも呼ばれる双極性障害とうまく付き合いながら、多彩な創作活動を行う坂口恭平（1978-/熊本在住）。早寝早起きをして、原稿を書き、絵を描き、料理をつくり、子どもの世話をし、そして携帯電話の番号を公開して死にたい人からの「いのちの電話」を受け続ける。「自分が自分であるために」何かを作る。あなたにとってそれは何だろうか？

上：豊橋技術科学大学 ICD-LAB 《弱いロボット》、中：西本喜美子さんの「自撮り写真」
下：坂口恭平《cook》2019年6月16日



【開催概要】

展覧会名：ライフ 生きることは、表現すること

開催期間：2020年4月11日（土）～6月14日（日） 56日間

会場：熊本市現代美術館 熊本市中央区上通町2-3 びぶれす熊日会館3階

開館時間：10:00～20:00（展覧会入場は19:30まで）

休館日：火曜日 ※ただし5/5（火）は開館し、5/7（木）は休館

観覧料：

	一般	シニア (65歳以上)	学生 (高校生以上)	中学生以下
当日	1100円	900円	600円	無料
前売	900円	700円	500円	
団体(20名以上)	900円	700円	500円	

※前売券は4月10日（金）まで当館にて販売

※団体料金は下記をご提示の方にも適用

各種障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、被爆者健康手帳等。付き添いの方1名にも適用)、電車・バス1日乗車券等、JAF会員証、緑のじゅうたんサポーター証

※美術館友の会証をご提示の方無料(1展覧会につき1回限り)

主催：熊本市現代美術館[熊本市、公益財団法人熊本市美術文化振興財団]、熊本日日新聞社、KAB 熊本朝日放送

助成：一般財団法人地域創造

協賛：株式会社メイワリーベル

協力：rin art association、ヒューマンライツふくおか、アール・ブリュット パートナース熊本

後援：熊本県、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本県文化協会、熊本県美術家連盟、熊本国際観光コンベンション協会、NHK 熊本放送局、J:COM、エフエム熊本、FM791

Opening Programのご案内

*記者発表－ 4月10日（金）13:30～

*内覧会－ 4月10日（金）17:30～

※一般公開－ 4月11日（土）10:00～

[展覧会関連イベント]**■研究者トーク「弱いロボットだからできること」**

AIなどのテクノロジーが進化する社会における「弱いロボット」の可能性についてお話しします。

日時：①4月11日(土) 14:00 - 15:30 ②5月16日(土) 14:00 - 15:30

場所：いずれもホームギャラリー 参加無料

講師：岡田美智男、大島直樹（豊橋技術科学大学／出品ロボットの制作ラボ[ICD-LAB]主宰）他

■片山真理アーティスト・トーク

装飾を施した義足等を使用するセルフポートレートで知られ、国内外で活躍する同氏が近作について語ります。

日時：4月12日(日) 14:00 - 15:30

場所：ホームギャラリー 参加無料

講師：片山真理（出品作家）

■キュレーター・トーク「金陽会のこれまでとこれから」

当館学芸員時代から、国内外のハンセン病療養所や、菊池恵楓園絵画クラブ金陽会作品の調査・展示を続ける同氏に、近年の活動について語っていただきます。

日時：4月26日(日) 14:00 - 15:30

場所：ホームギャラリー 参加無料

講師：蔵座江美（ヒューマンライツふくおか理事）

■ファミリー・トーク「家族からみたアーティストたち」

支援学校時代に当館の開館記念展に参加し、アーティストとしての道を歩み始めた藤岡祐機氏、渡邊義紘氏のご家族に、日々の制作や生活の様子についてうかがいます。

日時：5月2日(土) 14:00 - 15:30

場所：ホームギャラリー 参加無料

■西本喜美子トークショー

熊本の「自撮りおばあちゃん」として知られる同氏と、長男で写真の師でもある和民氏が、写真の魅力や、ライフスタイルについて楽しく語ります。

日時：5月5日(火・祝) 14:00 - 15:30

場所：ホームギャラリー 参加無料

講師：西本喜美子（出品作家）、西本和民（遊美塾主宰）

■編集者トーク「受け身の人」

『弱いロボット』『坂口恭平躁鬱日記』の担当編集者でもある同氏に、お二人との出会いやその魅力について語っていただきます。

日時：5月24日(日) 14:00 - 15:30

場所：ホームギャラリー 参加無料

講師：白石正明（医学書院「シリーズ ケアをひらく」編集者）

ゲスト：坂口恭平（出品作家／予定）

■トーク&ワークショップ「写真は頭で撮る！目からウロコの写真教室」

「自撮りおばあちゃん」の師であり息子。有名ミュージシャンのジャケット写真などを多数手がける同氏に、初心者からベテランの方まで楽しめる写真のコツを教えてください。

日時：6月6日（土）14:00 - 17:00

場所：ホームギャラリー 要予約／参加無料

講師：西本和民（遊美塾主宰）

持ち物：カメラやスマートフォンなどをお持ちください。

[その他のイベント]

●プレママ&ファミリーツアー

0-6歳の子どもと大人、妊娠中の方とその家族や友人の方を対象とした楽しいツアーです。

日時：4月25日（土）10:30 - 11:10 ※要展覧会チケット（大人のみ）

場所：展覧会場

定員：7組（事前申込制）

●CAMK レクチャーカレッジ

担当学芸員が展覧会についてスライド等を交えながら解説します。

日時：5月9日（土）14:00 - 15:30

場所：ホームギャラリー 参加無料

講師：坂本顕子（熊本市現代美術館学芸員）

●ギャラリーツアー

学芸員が展覧会をわかりやすく解説します。※要展覧会チケット

日時：①4月19日（日）、②5月31日（日）、③6月7日（日）、④6月14日（日）

各回 15:00 - 15:40

場所：展覧会場

※展覧会チケットは当日のみ何度でも再入場可です。

※その他、会期中のイベントも多数ございますので、詳しくはお問い合わせください。

お問い合わせ先

熊本市現代美術館（学芸担当：坂本 広報担当：丸吉、中川）

〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 tel: 096-278-7500 fax: 096-359-7892

[HP] www.camk.jp [Twitter] [camk_kumamoto](https://twitter.com/camk_kumamoto) [E-mail] gamadas@camk.or.jp



- ・美術館入口（びふれす熊日会館3階）まで、通町筋電停又はバス停から徒歩1分です。電車通り側歩道から、エスカレーター又はエレベーターをご利用ください。
- ・「びふれす熊日会館」の駐車場は、数に限りがあります。できるだけ公共交通機関をご利用ください。